## 奈文研との学術交流に参加して

私たちは中国社会科学院考古研究所と奈文研との共同研究にもとづき、2019年11月１日から12月１日まで、奈文研の方々と交流することができました。

期間の前半は、奈文研が東大寺、奈良県立橿原考古学研究所と共同で実施していた東大寺東塔院の発掘調査に参加しました。実際に、遺構を発掘し、土層図の作成などをおこないました。そこでは、日本と中国の発掘方法の違いを感じるとともに、自分たちの発掘方法について見つめ直す機会を得ました。日本古代の代表的な寺院である東大寺の調査に参加できたことは得難い機会でした。

後半は、奈文研のいくつかの部署を見学しました。特に、木器にのこる年輪を手掛かりに複数の遺物を接合するという研究は、中国でも珍しく非常に興味をもって、担当の研究員の方と議論をしました。木器の保存方法や研究方法については中国でも非常に関心が高まっています。今後も、こうした方面で日本との交流を深めたいと感じた次第です。

11月26日には、奈文研にて講演をおこないました。周は「旧石器時代の火を用いた技術　寧夏省水洞溝遺跡を例として」、唐は「江蘇省蘇州木瀆古城遺跡の発掘調査と研究（東周～漢代）」と題して、それぞれ現在の研究や発掘調査の紹介をし、奈文研の多くの研究員からさまざまな質問、意見をいただくことができました。

１カ月という短い間でしたが、多くの研究者と知り合うことができたことは、今後の我々自身の財産ともなり、同時に両研究所間の友好関係を促進するうえでも大きな力となるでしょう。このような有意義な交流が継続することを希望します。

（中国社会科学院考古研究所　周 振宇・唐 錦琼）

土層図の作成